

妊娠期～産後に 妊産婦が置かれている現状と課題について

コネヒト株式会社：青柳有香

会社概要:「ママリ」サービスについて

全国350万人のユーザーにご利用いただいている子育て支援サービスです。妊娠・出産・育児等において悩みや困りごとがあった際に、同じような経験を持つママや先輩ママからのアドバイスや共感を得ることができます。



アプリを中心とした子育て支援サービス
約10年間の運営ノウハウ



ママの
3人に1人が利用中！
(※1)

- ・全体の4割が週3日以上利用(※2)
- ・1人あたり1日20分利用(※3)
- ・主要SNSに次ぐ利用率(※4)

アプリ会員数
350万人

アプリ内検索
月間
400万回

アプリ内投稿
月間
110万件

メディア

- ・月間320万UU
- ・記事数 9,000件以上

SNS

インスタ・LINE・Xなど
合計**170万**フォロワー



れあち
妊娠 39週目 1歳3ヶ月

☆ お気に入り

育児疲れのかな、ストレス溜まるのかな。。。吐かせてください

わちゃわちゃしながら朝まで飲み明かす事はもう二度とないだろうな〜と、約2年前の写真や動画を見ながらずっと涙が溢れる。。笑

娘は可愛くて幸せで仕方ないのに、ふと、あの頃に戻りたいなって思ってしまう時がある。

もうあの頃の自分には戻れないのか、、、ああ、まだ若いのに、もっと遊んどけば良かったなって。こんな事思うの母親失格ですよね。

- Q 旦那
- Q ストレス
- Q 育児疲れ
- Q 2人目
- Q 1歳3ヶ月
- Q 慣らし保育



akane
生後 11ヶ月

私は不妊治療の末に高齢出産という年齢で1人目を産みましたが、もっと早く産んでいれば良かったな、と思います🍀

若くして子どもを産んだ地元の同級生たちは子どもが小中学生になって、旦那さんに預けて、当時のように夜から朝にかけて何軒も梯子をして吞んでいたりしますよ。結構な頻度で🥲

今は妊娠中で産後もすぐには難しいと思いますが、できる日が来ますよ！旦那さんを頼れないときは、シッターさんなどにお世話になるという方法もあります

育児の
悩み

もっとわかります！！
そして毎日お疲れ様です🙏

私の周りはまだみんな遊びまくりで、この前有難く1日遊びに行かせてもらいましたが、私の毎日も幸せいっぱいだけど、自分のために使える時間しかないって羨ましいなと思ってしまいました🥲

でもその友だちたちからしたら、私をとっても羨ましいと言ってくれるので、結局ないものねだりだよってという結論に至りました🥲

※1 「ママリ」で2023年内に出産予定と設定したユーザー数と、厚生労働省発表「人口動態統計」の出生数から算出

※2 集計対象期間2022/7/1~2023/6/30 ※3 集計対象期間2023/6/1~2023/6/30 ※4 GMOリサーチ株式会社による調査(2022年3月実施)より

ママリユーマーに対する
妊娠・出産・産後期における
アンケート概要と結果について

「ママリ」を活用したアンケート調査について

アンケート調査の概要

- ・産前産後のママ(末子年齢 -1歳(妊娠中)~4歳程度)としたアンケート調査を実施
- ・人口分布に比例した割合での妊産婦からの回答を、全都道府県から 3,991件回収した

調査概要

妊娠期、出産時、産後における現状の実態を把握

対象

全国のママリアプリユーザーのうち、妊娠中または出産を経験された方

調査方法

ママリアプリ内でアンケート形式で募集

有効回答数

回答数: 3,991件
※アンケート回収期間: 2024/07/25-8/18

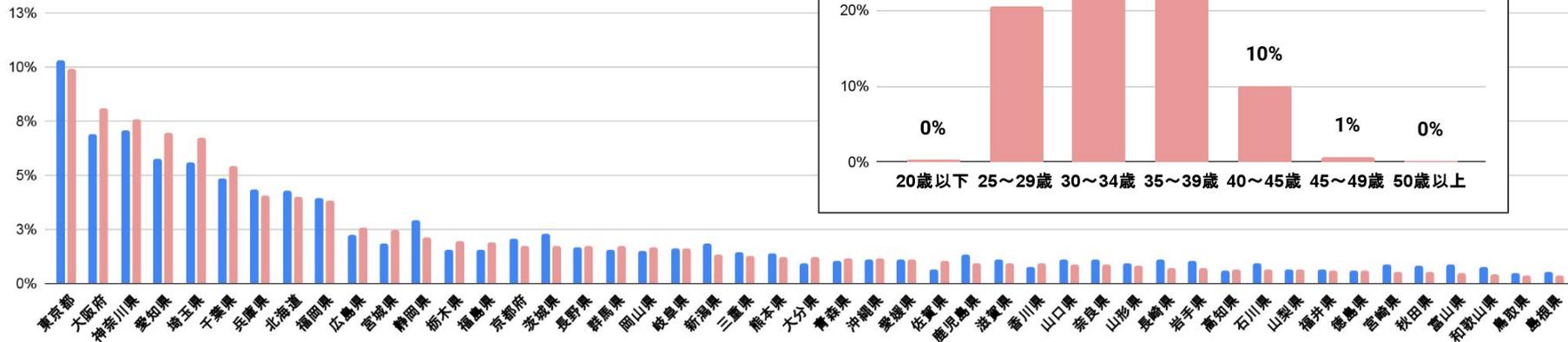
「ママリ」を活用したアンケート調査について

参考：回答者の構成比と年齢分布

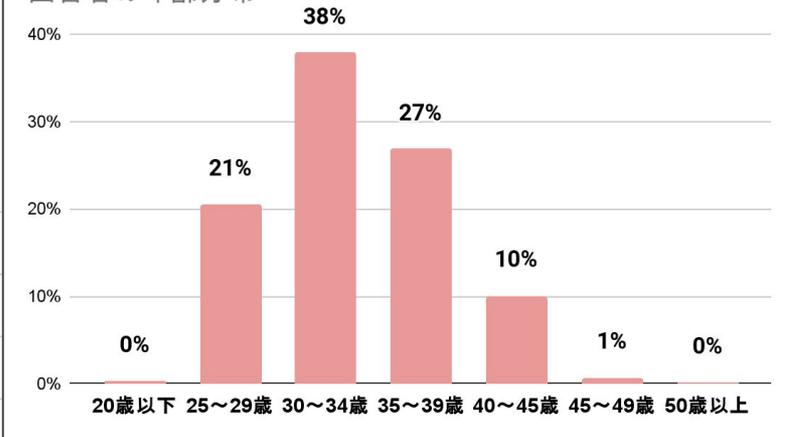
- ・全国3,991名の回答者の年齢及び都道府県分布は以下の通り
- ・都道府県別の回答者分布は人口構成比に近い回答が得られた

人口構成比と回答者構成比

■ 人口構成比* ■ 回答者構成比



回答者の年齢分布



*【出典】2022年の国勢調査より参照

「ママリ」を活用したアンケート調査について

課題・ニーズ調査

・妊娠期から産後までのアンケート概要は以下の通り

妊娠期	妊娠期における費用調査
出産時	出産時における費用調査 無痛分娩に関する実態調査
産後	産後のケアについての実態調査

「ママリ」を活用したアンケート調査について

課題・ニーズ調査

・妊娠期から産後までのアンケート概要は以下の通り

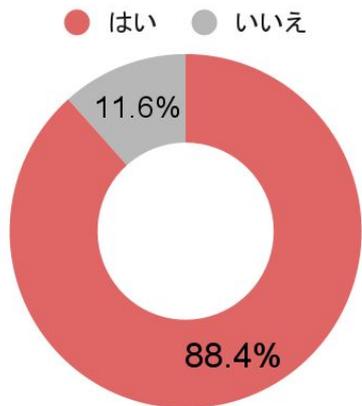
妊娠期	妊娠期における費用調査
出産時	出産時における費用調査 無痛分娩に関する実態調査
産後	産後のケアに関する実態調査

アンケート調査から見た現状と課題①（～妊娠期～）

サマリ1

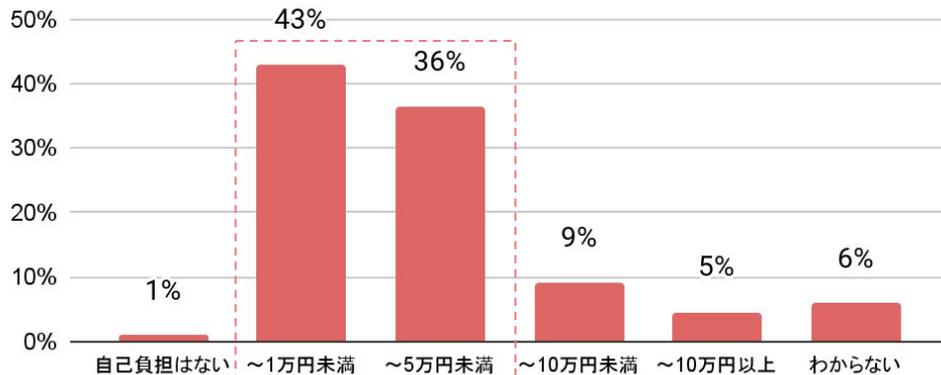
- 妊婦は、妊婦健診の公費補助だけでは足りず、約 9割に自己負担が発生している
- 自治体補助を超えて生じた自己負担額は、～1万円未満が43%、～5万円未満が36%で全体の8割程度を占めている

妊婦健診の費用に関して自己負担が発生したことがありますか？



出典:コネヒト「妊娠～産後に関する調査」(2024年8月実施、n=3,991)

妊婦健診を受ける際に自治体補助を超えて生じた自己負担額はいくらでしたか？



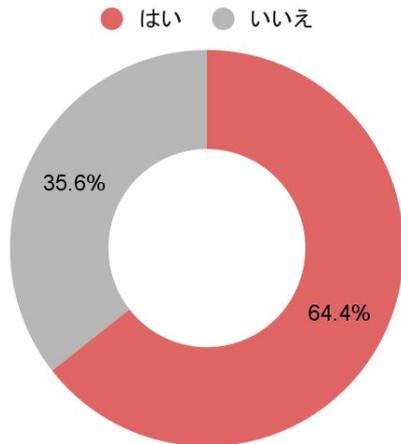
出典:コネヒト「妊娠～産後に関する調査」(2024年8月実施、n=3,527)

アンケート調査から見た現状と課題①（～妊娠期～）

サマリ2

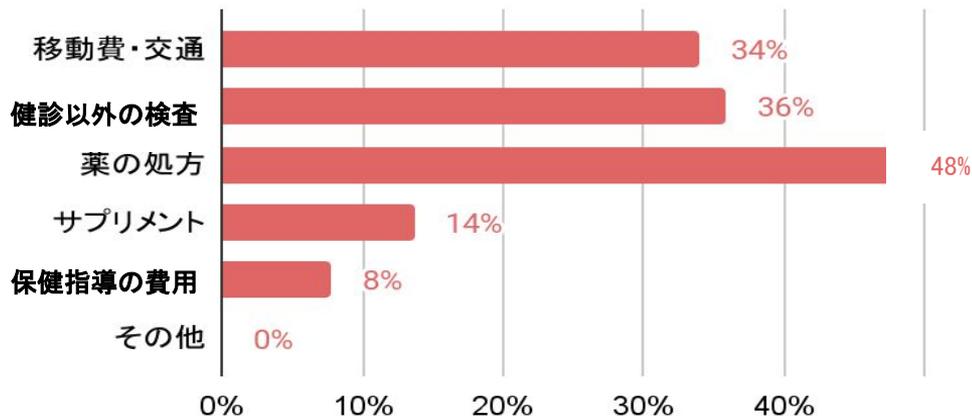
- 64%の方が妊婦健診以外にも自己負担が発生したと回答
- 健診以外に発生した自己負担の費目としては、受診施設までの交通費、出生前診断等の健診以外で必要な検査や、薬の処方等が多く挙げられている

妊婦健診を受ける際に、健診以外の内容で自己負担が発生したことはありますか？



出典：コネヒト「妊娠～産後に関する調査」（2024年8月実施、n=3,991）

具体的にどのような費用が発生しましたか？



出典：コネヒト「妊娠～産後に関する調査」（2024年8月実施、n=5,555）
※複数回答

アンケート調査から見た現状と課題①（～妊娠期～）

現状課題からの提言

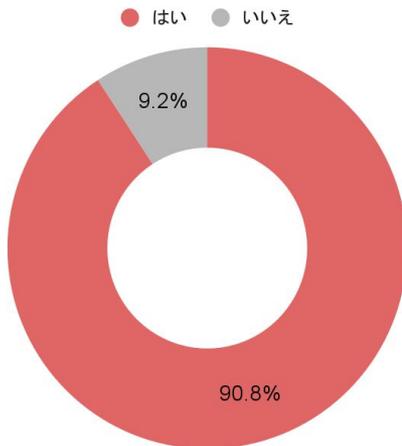
- 妊婦健診では、公費補助ではまかなえない部分に加えて、交通費や公費補助対象外の健診費等、想定外の自己負担が発生している。妊婦の経済的負担を軽減するために、可能な限り公費補助を充実させて欲しい。
- 厚労省が実施している「妊婦健康診査の公費負担状況に関する調査」等では、各自治体の公費負担状況や、健診施設での費用負担は一定可視化されているものの、情報が集めづらい状況になっている。「出産ナビ」等を活用し、妊婦が効率的に、かつ納得度の高い選択が出来るよう全国各自治体ごとの公費補助額と、施設ごとの健診にかかる費用を一覧で可視化出来るようにしていただきたい。

アンケート調査から見た現状と課題①(～妊娠期～)

サマリ

- 妊娠時の受診可能施設や、出産後の産後ケア施設、また利用にあたって全国の自治体ごとの補助額を簡単に一覧で見られるようにして欲しいという回答が9割。

妊娠時の受診可能施設や、出産後の産後ケア施設、また利用にあたって全国の自治体ごとの補助額を簡単に一覧で見られるようにして欲しいと思いますか。



「ママリ」を活用したアンケート調査について

課題・ニーズ調査

- ・妊娠期から産後までのアンケート概要は以下の通り

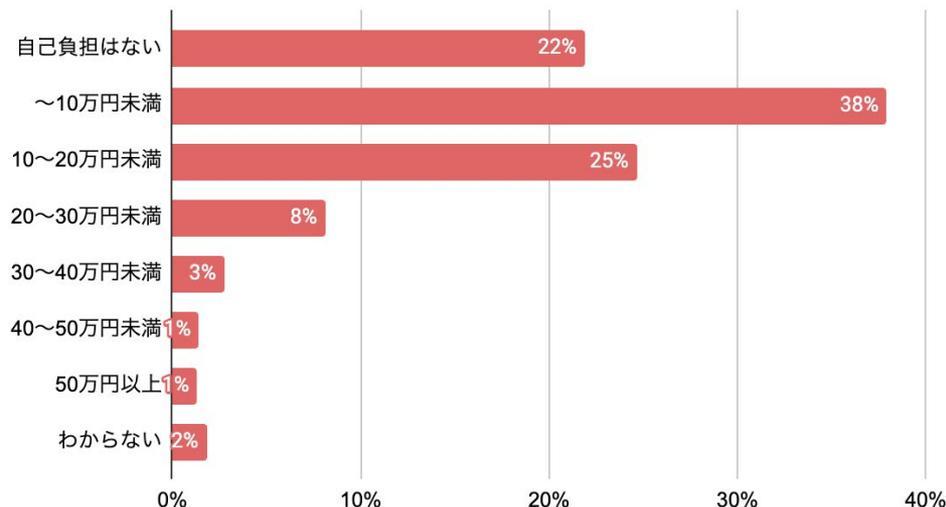
妊娠期	妊娠期における費用調査
出産時	出産時における費用調査 無痛分娩に関する実態調査
産後	産後のケアに関する実態調査

アンケート調査から見た現状と課題②(～出産～)

サマリ

- 出産時に、自己負担が発生しなかったと答えた回答者は 22%
- 出産育児一時金を超えた自己負担額としては 10万未満が最多の38%。次いで、10～20万円未満が25%

出産育児一時金を超えた自己負担額はいくらでしたか？



アンケート調査から見た現状と課題②(～出産～)

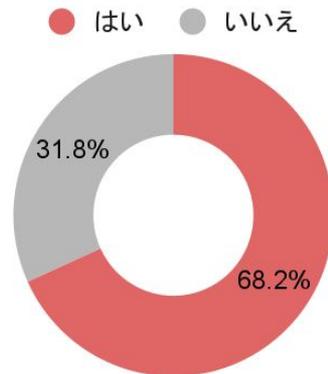
サマリ

- 施設への支払い額が分かったのが産後だった回答者は 4割。特に、会計日(退院日)になって支払額が判明した回答者が最多であった。
- また32%が出産にかかる費用を分娩施設から十分に説明されなかったと回答

出産にかかるおおよその費用は、いつ把握しましたか？



出産にかかる費用に関して、分娩施設から十分な説明を受けましたか？



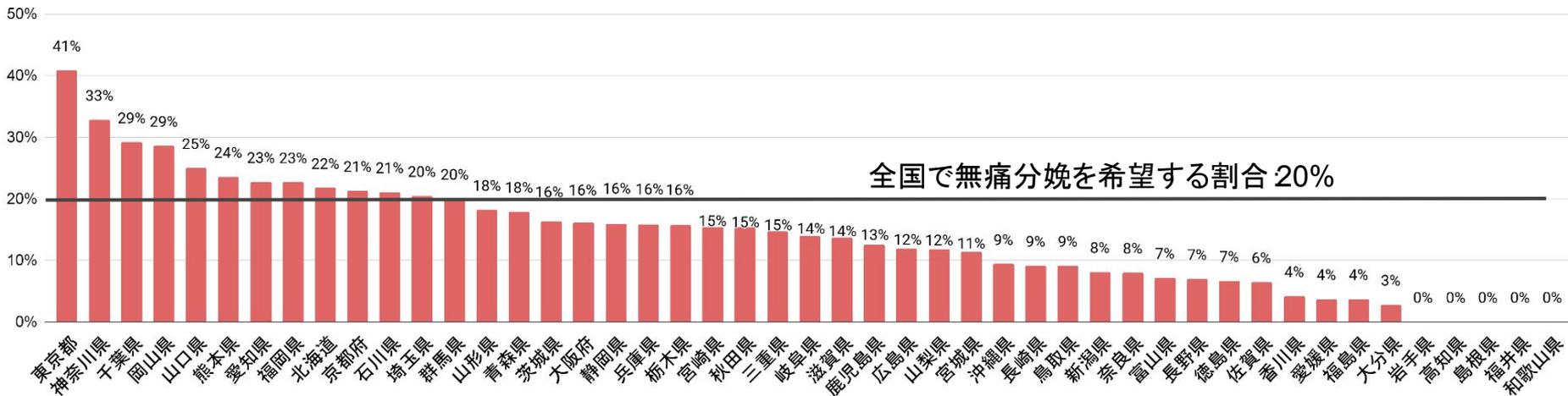
「ママリ」を活用したアンケート調査について

アンケート調査から見た現状と課題②(～出産～)

サマリ

- 出産時の無痛分娩希望者は全国平均で約 2割
- 都道府県別には東京、神奈川、千葉など大都市圏が全国平均よりも無痛分娩希望割合が高い傾向
- 無痛分娩希望者の少ない都道府県は、無痛分娩を受けられる対応施設がない、もしくは少ないことが想定される。

都道府県別の無痛分娩希望割合

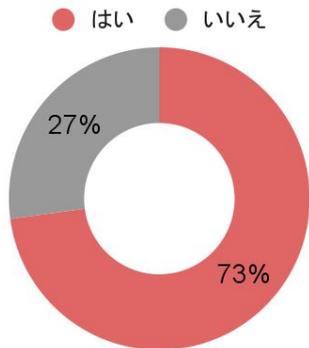


アンケート調査から見た現状と課題②(～出産～)

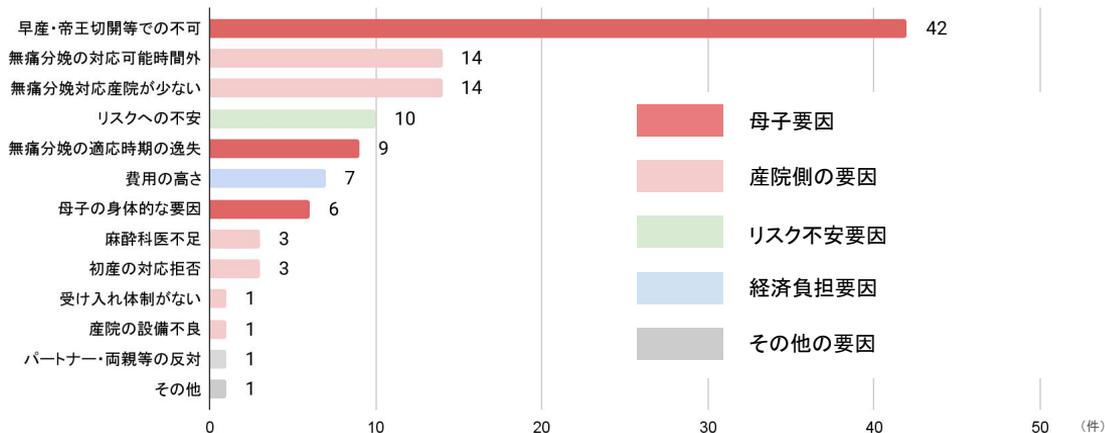
サマリ

- 無痛分娩希望者のうち、27%が無痛分娩を実際には受けることができなかったと回答
- 希望通りに受けられなかった理由は予定日より早く生まれる、帝王切開など母子要因での無痛分娩の選択不可が最多回答であった。次点として産院での対応可能時間ではない、無痛分娩が選べる産院が少ないなど、産院要因の理由が並んだ。

希望通りに、無痛分娩を受けることができましたか？



希望通りに無痛分娩を受けられなかった理由(複数選択可)



アンケート調査から見た現状と課題②(～出産～)

現状課題からの提言

- 出産にあたり、約8割に自己負担が発生していることが分かった。しかし、その具体的な支払い費用が分かったのは会計・退院の日であったと答えた割合が最多であったことから、出産にかかる費用を早期に妊婦が把握できるよう、分娩施設も説明機会を早期に設けていただきたい。また、何にいくら掛かっているのかという費用の内訳を透明化していただき、妊婦が自身の経済状況やニーズに応じてサービスを取捨選択できるようにしてほしい。
- 分娩方法に関しても、無痛分娩は全国平均では2割のみが希望している状況だが、居住地によっては、実施設がそもそもない・少ないことから、妊婦が選択できない状況が発生していることが想定される。妊婦がニーズに応じた分娩方法やサービス選択ができるよう、施設の充実と、夜間・休日等でも希望の分娩方法が受けられるよう医療体制を整備していただきたい。

「ママリ」を活用したアンケート調査について

課題・ニーズ調査

・妊娠期から産後までのアンケート概要は以下の通り

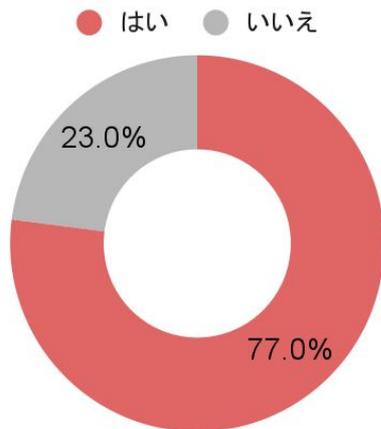
妊娠期	妊娠期における費用調査
出産時	出産時における費用調査 無痛分娩に関する実態調査
産後	産後のケアに関する実態調査

アンケート調査から見た現状と課題③(～出産～)

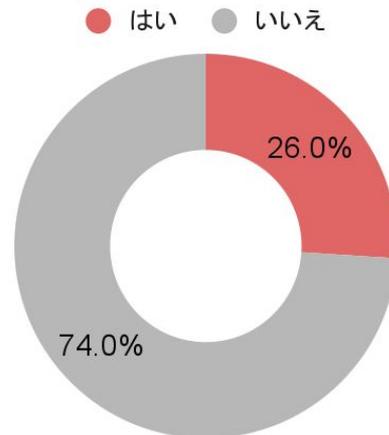
サマリ

- 産後気分が落ち込んだことがあると答えた回答者が約 8割
- 一方で自治体が発行している産後ケア事業を受けた回答者は 26%に留まっている

出産後に気分が落ち込んだ経験はありますか。



出産後、自治体が発行している産後ケア事業を受けましたか？

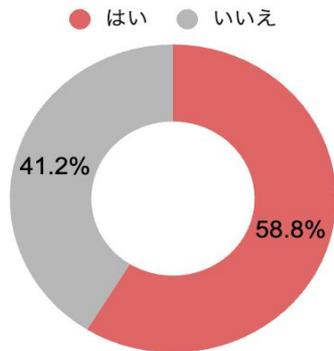


アンケート調査から見た現状と課題③(～産後～)

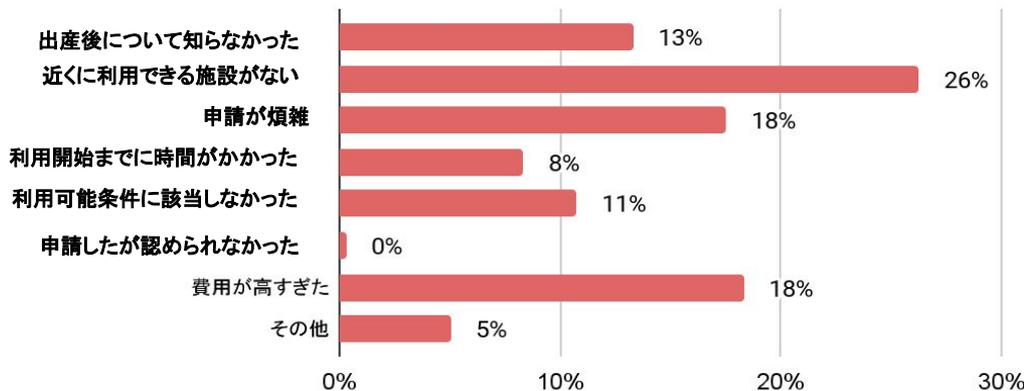
サマリ

- 産後ケア事業を受けなかった回答者のうち 59%は本来は受けたかったと回答
- 産後ケア事業を受けたかったのに受けられなかった理由の最多は「近くに利用できる施設がなかった」が26%、次いで「費用が高すぎた」が 18%と続いている。自由回答では、「上の子の預け先がなかった・同伴が不可だった」「里帰りのため受けられなかった」という回答が多く集まった

いいえとお答えの方に伺います。
本来は産後ケア事業を受けたいですか？



産後ケア事業を受けたかったのに、受けられなかった理由を教えてください。

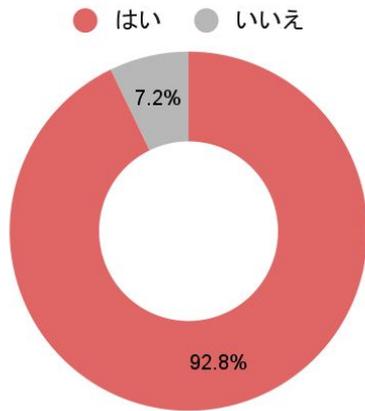


アンケート調査から見た現状と課題③(～産後～)

サマリ

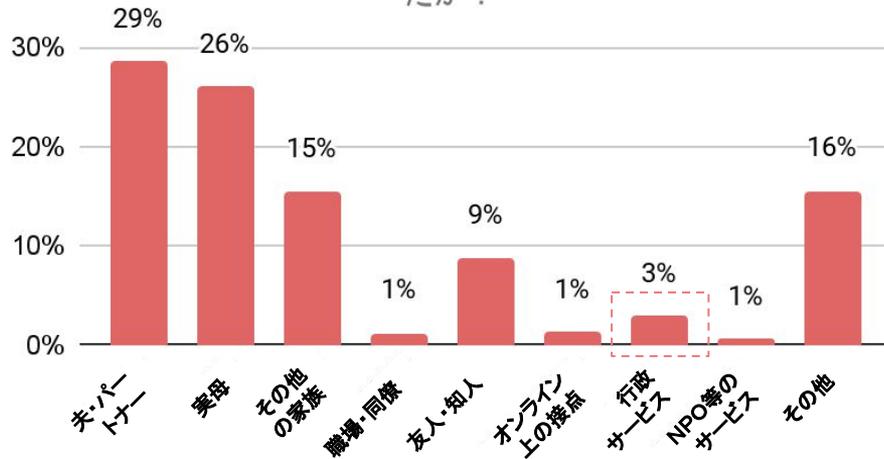
- 出産後、頼れる人、支援してくれる人がいたと答えた回答者が 93%の一方、7%はいなかったと回答
- 頼れる人の内訳としては、「夫・パートナー」、「実母」に多くの回答が集まった。
- 一方で行政サービスの支援を受けたと答えた回答者は 3%に留まった。

出産後、頼れる人、支援してくれる人はいましたか？



出典:コネヒト「妊娠～産後に関する調査」(2024年8月実施、n=3,074)

頼れる人がいたと答えた方に伺います。誰からの支援を受けましたか？



出典:コネヒト「妊娠～産後に関する調査」(2024年8月実施、n=8,668)
※複数回答可

アンケート調査から見た現状と課題③(～産後～)

現状課題からの提言

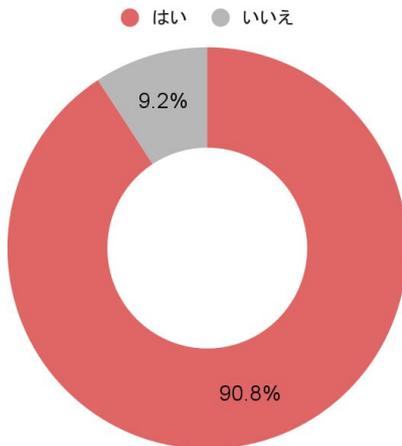
- 産後気分が落ち込んだことがあると答えた回答者が約 8割いる中で、自治体を実施している産後ケアを受けた回答者は26%に留まっていた。産後に必要なケアが受けられるよう、メンタルケアの受け皿の整備など、居住地や出産場所の近くで産後ケアが受けられるよう施設の充実、またサービスの拡充を求める。
- 同時に、費用の適正化や、申請手続きの簡略化、また子連れでもサービスが受けられるような体制の整備を求める。

アンケート調査から見た現状と課題③(～産後～)

サマリ

- 妊娠時の受診可能施設や、出産後の産後ケア施設、また利用にあたって全国の自治体ごとの補助額を簡単に一覧で見られるようにして欲しいという回答が9割。

妊娠時の受診可能施設や、出産後の産後ケア施設、また利用にあたって全国の自治体ごとの補助額を簡単に一覧で見られるようにして欲しいと思いますか。



妊婦当事者として、私自身の
これまでの妊娠生活における
体験と課題感について

妊婦当事者として、これまでの妊娠生活における体験と課題感について

- **妊婦健診の持ち出しについて**

現在妊娠7ヶ月で、出産までに受ける健診全 14回に対し、再検査を含め現在 5回受診済。9回を残し、現在の自己負担額は 32,000円程度。妊娠発覚～母子手帳を受け取るまでは、妊娠しても補助が受けられないこともあり、実際にはさらに多くの自己負担をしている状況。妊婦健診にここまで自己負担が発生することは予想外であった。

- **居住地による公的費用補助の違いに関して**

現在の居住地から、妊娠後期に別自治体への転居を予定している。出産は里帰りをし、長野県内で出産する予定。里帰り出産を行うにあたり、現居住地・新居住地に確認をしたところ、現居住地では産婦健診の費用は還付対象外、新居住地は領収書があれば還付してもらえるとのことだった。出産時の住民票の所在によって、公費補助が変わること(自己負担額が変わること)は驚きでもあり、不平等さを感じる出来事であった。

妊婦当事者として、これまでの妊娠生活における体験と課題感について

- 無痛分娩に関する意思と恐怖

里帰りする実家の近所に無痛分娩の対応施設があったため、出産時の体力温存や産後の早期回復を目的に、無痛分娩を希望している。アンケートでも「無痛分娩を想定していたが、無痛分娩の対応時間外に陣痛が起こり、実際には受けることが出来なかった」という声も挙がっていた。

実際に、妊婦の約半数は夜間の出産となっているというデータもある。

※データリソース:伊藤道子, & 齋藤いずみ. (2002). 分娩時看護の実施時刻と産婦の重症度の実態 . 母性衛生 = Japanese journal of maternal health, 43(4), 560-574

24時間体制での対応が難しければ、無痛分娩を想定・希望していても、受けられない事態になることもあり、恐怖感が募る。医療体制を24時間整え続けることの難しさも理解するが、当事者としては、いつ陣痛が起きても、受けたいサービスが受けられるような体制を整えて欲しいと考える。

妊婦当事者として、これまでの妊娠生活における体験と課題感について

- 産後について

私自身も、夫の実家・自身の実家が遠く離れており、頼れる人が近くにいない中で子育てをしていくことになる。今回のアンケートでも、夫や実母、その他の家族が産後サポートしてくれたという声が多かったが、核家族・共働き家庭が増えている中で、必ずしもパートナーや実母・家族のサポートが受けられる人ばかりではない。行政や民間の産後ケア事業のサービスがより利用しやすくなり、産後のメンタルケアや育児相談を気軽に、かつ継続的に受けやすい環境を整えていただくことを望む。